



感情を育てるために

校長 藤森克彦

令和3年、新春のお喜びを申し上げます。去年は新型コロナウイルス感染拡大防止として様々な制約が求められる中、保護者や地域の方々の皆様には多大な理解とご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。年明けも依然として厳しい状況が続いておりますが、本年もよろしくお願ひいたします。

さて、昨年末のことでしたが、東京都より新型コロナウイルス感染症の対応にあたる医療従事者の皆さんに対して、都内小中学生が感謝の思いを手紙に託して伝える取り組みについて協力の要請がありました。ただ、2学期も余すところあと二日しかなく、子どもたちが作業する時間はあるのか、事前に詳細な学習をしていない子どもたちが突然感謝や応援のメッセージが書けるものなのか悩みました。実際はハガキ半分程度の大きさのカード形式のメッセージで、細かい字なら200字ぐらいの分量になります。「仕事は大変ですか」とか「頑張ってください」だけではその字数は埋まりません。医療従事とはどんな仕事をしていてどのような苦労があるのか、その恩恵や今自分たちが頑張れることなど、社会への関心や人々の努力などもある程度分かっていないと、趣旨が伝わる手紙にはなりません。思うほど簡単でないことは教員としての直感で分かりました。

しかし、「大一の子どもたちならやれるんじゃないですか」との教員の声を機に、今まで学んできた新型コロナ感染防止への理解や態度、思いやりや助け合いの心情をどこまで形として表すことができるのか、全学年全員が1枚ずつ書いてみました。無理はさせず時間内で出来上がったものだけにし、全部で762名分のカードを送ることができました。集まったものを読んでみると、思った以上に子どもたちは医療従事についてよく知っていて、中には病院に行ったときのエピソードなど工夫して書かれているものがいくつもあり驚きました。ネットニュースなどでは押し付けがましいなどと賛否の声もあったようですが、大一の子どもたちの思いやりの真心や今まで培われてきた底力的一端を見ることができ、本当にいい機会になりました。

ところで、一般的な話になりますが、こうした気持ちを伝えるメッセージが聞こえのよいことばで飾られているだけであるならば残念です。感情を自分のものとして獲得した上で、その思いを素直に表現できることを望みたいところです。子どものうちなら、なおさらです。我々大人は、子どもを「ことば」で育てる機会が圧倒的に多く、「思いやりをもちなさい」と伝えれば「思いやりが育つ」と考えがちです。しかし、「ことば」を伝えただけで心情まで伝わるものでしょうか。例えば、「机を運んで」と頼めばほとんどの子どもは何をすればよいのか分かります。ところが「思いやりをもちましよう」となると、友達に優しくしてあげようと思う子どももいれば、大人が見ているところだけの振る舞い方だけ分かっている子ども、何をすればいいのか全く分からない子どももいて、理解の状況は一律ではありません。「机」と「運ぶ」は具体的な物や行動と「ことば」が一对一対で結びついています。しかし、「思いやり」は抽象的なことばであり目には見えません。感情を表すことばは物を表すことばと性質が異なるわけです。では、どのようにして子どもは感情を表すことばを獲得していくのでしょうか。

赤ちゃんに「いないないばあ」をしたとき、赤ちゃんは喜んで身体の中に「楽しい」「うれしい」のエネルギーが流れます。それを周囲の大人が感じ取って「うれしかったのー、そうなの、たのしいねー」と働きかけたとき、身体の中を流れている喜びのエネルギーと「楽しい」「うれしい」という言語(記号的なもの)が結びつけられていきます。逆に悔しかったときは、泣き叫んだり顔を真っ赤にして怒ったりしている身体の中のエネルギーを、周囲の大人が汲み取って「悔しかったね」「怒っているんだね」と共感してあげることで、感情が言語化されていきます。「感情」と「感情を表すことば」が一致したものと獲得されていくためには、子どもがそのとき感じている感情を推測して正しく言い当ててくれる大人の存在が必要だということになります。身体の中を流れている混とんとした感情が「ことば」とつながり、「うれしい」「楽しい」「悲しい」「悔しい」「怒っている」といった「ことば」を使って自分の身体の中で起こっていることを他者と共有することによって、複雑な感情も互いに理解し合えるようになるのではないのでしょうか。

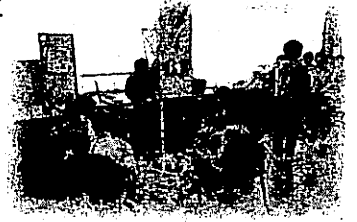
子どもたちが相手の立場に立って思いやり、「何かしてあげたい」「助けたい」と抱いた感情を周りの大人である我々が共有し合うことによって、『豊かな社会性・人間性』がさらに伸びていく。そんな一年になることを願ってやみません。

フレンドまついを終えて

6年担任 菊池 未希子

例年は4月から始まるフレンドタイムですが、今年度は9月からのスタートになりました。期間は短くなったものの、班遊びを通して異学年交流を深めていました。12月18日のフレンド祭りは11月から6年生が中心となり5年生と協力をして準備をすすめてきたことにより大成功のうちに幕を閉じました。感染予防の視点での工夫が求められる中で、見たことのない内容のお店を作ったグループ、流行を取り入れたグループ、たくさんの遊びを凝縮させたグループ、ICTを活用したグループ。それぞれのグループが、趣向を凝らしたことで多くの下級生が楽しんでいました。

全校児童が一斉に楽しむ行事はこれで最後でした。6年生はこうして、「小学校生活最後の〇〇」というものを一つ一つ終えていきます。充実した小学校生活になるように、引き続き指導していきます。



家庭科「出前授業」について

家庭科 木村 ひとみ

<6年生> 乾物・ごまの出前授業(12/9, 10)

乾物ってどんな食材？



ごまについて知ろう



ごまについて学んだあと、1人1つすり鉢をいただいて、ごますり体験をしました。

<5年生> りんごの出前授業(12/11)

青森県連の方にお越しいたできて、りんごやリンゴ農家について勉強した後、サンフジと王林の食べ比べをしました。最後にりんごのイラスト入りの自由帳や定規、パンフレットと他にりんごを2つずついただいて、おいしいりんごをおうちの方にも食べていただくんだと、大喜びでした。



校内書き初め展

国語部 伊藤 知美

「書き初め」は、姿勢を正し、新年に臨む意気込みを、正しく美しい文字にこめて書く日本の伝統的な正月行事です。学校では、6日(水)から8日(金)までの期間に行います。冬休み直前からお正月にかけて練習してきた集大成を、のびのびと文字に表せるよう、集中して納得のいく作品を仕上げていきます。1, 2年生は、かきかた鉛筆で、3~6年生は太筆で取り組みます。

なお、今年度の校内書き初め展は、1月12日(火)14日(木)から16日(土)に開催いたします。保護者の方には、各学年対象の保護者会と16日(土)の市民科授業地区公開講座の参観日に公開いたします。各学級の廊下に展示いたしますので、ぜひご覧ください。

※ 例年、代表児童の作品を出展していました区展ならびに都展は、今年度は中止になっております。

5年 ドリームジョブを終えて

5年担任 中村 香織

5年生は、「働くとは何だろう？」をテーマに、様々な分野の職業で活躍している方からお話を伺いました。仕事内容、工夫や努力、やりがい、働くうえで大切なことを学びました。講師の方に、「一番大変なことは何ですか」「どうやったらなれるのですか」など、積極的に質問する場面もありました。学習後の感想では、働くことについて、一人一人が思いを深めていましたので、ここに紹介します。(編集上抜粋・省略しています)

○田邊 愛子さん(5松)

仕事とは誰かのためになることだと思う。表に出て皆のために働いている人もいるし、うらで支えている人もいる。一人一人自分が出来ること、やりたいことをして人のためになることをしている。辛いことがあってもやりがいがあるからすぐにやめたいとは思わないから、やりがいがある仕事をするのは大切だと思う。

○田村 春翔さん(5竹)

仕事は大変でつらいものだと思っていたけれど、自分のしたいことをやってもいい、つまり「自分の得意なことを生かせる」仕事がある。仕事は何年も続けることだから、「自分の好きな仕事」をやるほうが楽しいと思った。ぼくは、感謝されるのが好きだから、人の役に立つ仕事、そして感謝される仕事をやりたいと思った。ミスするのがいやだったけれど、今後はいろんなことにチャレンジしてみようと思う。

○田中 那野さん(5梅)

働くとは自分よりも人のためにすることだと思います。また子どものあこがれだと思いました。なぜなら仕事も最初は興味がなくても、お話を聞き終わった後にはどの仕事も良いなと思ったからです。私達は、私達が知っている一面しか見ていないが、その仕事にも知らない一面があるということを知ることができたのだと思いました。

○飯合 春佳さん(5月)

仕事で大切なこと、夢をかなえるのに大切なことは、努力と笑顔なんだって私は思いました。人を笑顔にするために人に優しくしたり、手助けしたりとだれにでもできる身近なことから、人々の笑顔の種をさがして努力して、笑顔と努力の花を咲かせる必要があると私は考えました。

4年 そろばん教室

4年担任 小池 絢子

12/14(月)~16(水)の3日間、東京珠算学院の新戸崇史先生にそろばんを教えていただきました。そろばんは暗算力や集中力が育つとよく言われていますが、実はそれだけではありません。脳の中ではそろばんをはじく動きを思い浮かべながら計算しているそうです。計算自体は左脳で行うようですが、そろばんを使うと右脳も使うので、バランスよく脳を育てられるそうです。

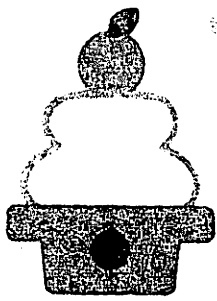
さて、3、4年生では算数の学習の一つとしてそろばんの学習を行います。今回は「たし算」「ひき算」の基本的な問題を教えていただきました。最初はそろばんをはじくだけで大変だった子も3日目には先生の指示に合わせ、一緒に計算を進めることができるようになりました。普段なかなかできない経験を通して、計算にも、そろばんにも、興味や関心をもってもらえると思います。

2年 生活科「おもちゃづくり」

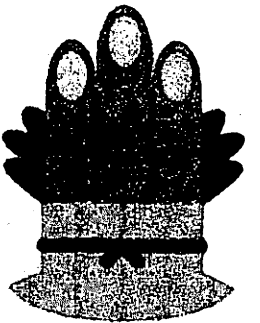
2年担任 野口 早紀子

12月~1月にかけて、生活科では「つくってためして」という学習をしています。第一弾として各クラスで1年生とおもちゃづくりの交流をしました。2年生は自分でおもちゃを作ったりおもちゃの作り方の説明書を書いたりして事前に準備をしました。国語で学習した「まず」「つぎに」などの順番を説明する言葉を使いながら、分かりやすく説明する文章を書くことに気を付けました。当日1年生に丁寧に説明したり、難しいところは手伝ったりしながら交流している2年生の姿を見て、大きな成長を感じました。先日町たんけん発表会に続き、1年生との交流を深める機会となりました。

第二弾は「おもちゃ大会」を開きます。2年生がおもちゃのお店を開き、1年生に楽しんでもらいます。フレンドまつりの経験を生かして、どんなお店を開くか、どんな準備が必要かを考えて学習していきます。



年間重点生活目標「大一ABCを身に付けよう」
 今月の生活目標
 生活のめあて 最後まで聞く
 保健のめあて うがいと手洗いをしよう
 給食のめあて 好き嫌いしないで食べましょう



1月の行事予定

日付	曜	主な行事	日付	曜	主な行事
1	金		17	日	
2	土		18	月	計測(2年)
3	日		19	火	放送朝会 計測(1年)
4	月		20	水	
5	火		21	木	ネットリテラシー教室(3年)
6	水	始業式 午前授業	22	金	児童集会(放送)
7	木	給食始	23	土	
8	金	委員会活動⑨	24	日	
9	土		25	月	
10	日		26	火	放送朝会 TGG(4年)
11	月	成人の日	27	水	体育朝会(長縄)①(2・4・6年) 午前授業
12	火	計測(6年) 校内書初め展① 保護者会(2・4年)	28	木	体育朝会(長縄)②(1・3・5年)
13	水	計測(5年) 午前授業	29	金	音楽朝会 クラブ活動⑨
14	木	避難訓練 起震車体験(4年) 計測(4年) 保護者会(1・3・5年) 校内書初め展②	30	土	
15	金	計測(3年) クラブ活動⑧	31	日	
16	土	安全指導 市民科授業地区公開講座 PTA役員会・実行委員会 校内書初め展③			

生活指導部より

生活指導部 小池 絢子

朝、正門で挨拶をしていると、きもちのよい挨拶がたくさんかえってくるようになりました。大きな声で挨拶をする児童、立ち止まってお辞儀をして挨拶をする児童。手本となる児童の挨拶を聞くと、さすがしい気持ちでいっぱいになります。これからもぜひ続けてほしい習慣の一つです。

さて、寒い冬を健康な体で乗り越えるために、特に心がけてほしいことを今から3つご紹介します。

- ①早寝早起きの習慣を継続する。
- ②手洗い・うがいをしっかりする。
(ハンカチを毎日欠かさず持って行っているかのチェックもお願いします。)
- ③体温調節をしやすい服装をする。

こんなときだからこそ規則正しい生活習慣をしっかりと定着させたいです。ぜひ、ご家庭でもお話をお願いします。

リレーコラム「かかわる、創る」

5年担任 八木 健登

先日、代表委員会の取組で「あいさつ週間」を通して、放送で呼びかけたり、ポスターを作って各クラスに掲示をしたりしてもらいました。その取組を通して5年生は、意識的に挨拶をする姿がたくさん見られました。6年生は最上級生として自分からすすんで挨拶したり、返したりする児童が多くいます。5・6年生のそんな姿を見て、低・中学年の子どもたちも「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」と言える子が増えてきています。上級生と下級生が触発し合う姿こそが学校で「かかわり・創っていく」姿だなあと感じています。大一は挨拶のできる素敵な学校になってきています。高学年が模範となり、学校の雰囲気創っていく。そして低・中学年がその雰囲気を引き継ぎ、よりよくなっていく。みんなでかかわって、大井第一小学校をさらによりよく創ってまいります。